

はじめに

在宅療養を支えるために

2015年は「団塊の世代」が75歳以上となる2025年に向けて、予防、医療、介護、福祉などの提供体制の再構築へのカウントダウンが始まる年です。都道府県の医療計画をはじめ、医療や介護などの制度面の改革が進むことになり、地域における在宅医療の推進はさらに重要となります。住み慣れた在宅での看取りを前提とした在宅医療がさらに展開されていくこととなりますが、在宅療養を支えるためには、在宅医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師などの医療連携だけでなく、介護や福祉、行政や後方支援の病院との連携が不可欠です。今後、地域包括ケアシステムの構築に向けての取り組みが加速され、歯科診療所は、その一翼を担っていくこととなります。

在宅歯科医療は、歯科診療所などに通院が困難な要介護者に対して、歯科治療、口腔機能管理、歯科専門職による口腔のケア、摂食嚥下リハビリテーションなどを提供する包括的な歯科医療であります。住み慣れた地域で療養する患者、家族に寄り添い、口腔のケアや食への支援を通じて、多職種と連携協働しながら、「口から食べること」を支え最期まで、生きる意欲を支援する生活の医療といえるでしょう。

在宅歯科医療の推進には、生活の場、暮らしの場における歯科医療のかかわり方の「マインド」、歯科治療には多くの器材が必要であり、安全な歯科訪問診療を提供するための「スキル」、地域の医療や介護との連携、病診連携などの「システム」、そして診療報酬などの経済的な「インセンティブ」が求められます。

本書について

本書は、かかりつけ歯科医として在宅歯科医療にいかにかかわっていくのか？ 多職種協働をどのように構築していくのか？ などを中心に、現場の歯科医師、歯科衛生士などの経験談、後方支援の歯科病院や地域医療支援病院の歯科の取り組み、地域で連携協働する在宅医師、訪問看護師からの声、さらに患者さん、ご家族からの声なども含めた構成となっております。第一部「在宅歯科医療現場からのメッセージ」は高藤、松本、新谷が、また「歯科訪問診療で大切なこと」は細野と富田が執筆しました。第二部は取材をもとにデンタルダイヤモンド社がまとめ、全体の企画と監修は細野と富田が担当しました。

これから歯科訪問診療をはじめようと考えている歯科医師、歯科衛生士はもとより、病院歯科などの皆様にも、在宅歯科医療の現場や地域医療連携などについてご参考にしていただき、在宅療養を支えるための一助になれば幸甚です。